

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400013		
法人名	有限会社 小春日和		
事業所名	グループホーム 小春日和		
所在地	亀山市南野町12-13		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2490400013-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 25 年 2 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、健康で安心・安全な生活が出来、生き生きと穏やかに生活して頂ける様に従業員一同、一丸となりサポートしています。利用者の身体、精神状況をしっかりと把握、心のケアを大切にしています。利用者、職員共に元気で明るく、家庭的な雰囲気笑顔が溢れています。地域の方々にも見守られ、ボランティアの方々(レクレーション・絵画・オカリナ)の協力でお茶やお菓子を楽しみながら、楽しいひとときを過ごし、利用者も大変熱心に参加している。職員も大いに勉強になっている。外部の方々との語らいやゆったりとした時間の共有を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気と普通の暮らしをモットーに援助しており、利用者はお互いに支え合うような和やかさが感じられる事業所である。事業所として自治会に加入はしていないが、運営推進会議をとおして地域の情報交換をして地域行事にも参加しており、地域としっかりと関わっているとされた。また職員間のまとまりがあり、意見交換が活発にされているように思われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の願い、思いを傾聴・受容し、尊敬の念を持って接し、利用者の自立を支援している。	利用者の主体性尊重、安らぎと自信を支える、地域に開かれた事業所等、10項目の倫理綱領を定め理念としている。これを壁やノート等に貼り、職員がいつも見るとともに日常援助に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報(運動会・祭り・老人会・文化祭など)を自治会から発信してもらい、参加している。当施設の駐車場が、祭りの行事の時には、子供神輿の休憩場になり、地域の一員として、行事と一緒に楽しみ、ふれあい交流をしている。	事業所は自治会に加入していないが、代表が住民として加入しており、地域行事の案内があればできるだけ参加している。地域のボランティアが毎月レクリエーションに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の職員会議議事録をもとに、利用者の様子等を自治会長・民生委員にお知らせしている。地域の人々とのふれあいの機会を多く持ち、理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行事報告・利用者の様子・新しい取り組み等を報告し、出席者の方々の報告・意見を聞き、話し合いを行い、今後のサービス向上に活かしている。	偶数月の第1月曜、午前10時に定例化している。家族や利用者も参加し、地域行事の情報交換や行政との意見交換をしている。最近では、ターミナルケアの意見交換もした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に利用者入所情報を毎月末に報告するとともに、事業の運営や利用者に関する相談・情報交換等をして、協力関係を築いている。	亀山市や広域連合、地域包括との間で、始終電話、訪問等で連絡合っている。去年は約半年、定数に満たず苦勞しており、行政にも何度も相談した。介護相談員は月1回、来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。利用者との人間関係の構築で鍵をかけないケアを実践しながら、見守りを強化している。	利用者はみなフレンドリーであるが、人に迷惑をかけないように、円滑な人間関係となるよう職員は注意している。迷惑行為があれば家族に説明するが、マニュアルや同意書は用意していない。	身体拘束はしないよう、職員間で確認し合っているが、何が、どんなことが身体拘束に結びつくのか、一層の理解を深めるような学習、研修等を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は、事業所内に於いての利用者の様子、職員間の様子等に細心の注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度については、現在当施設では必要性が無い為、学ぶ機会や活動支援は行われていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等に十分な説明を行い、十分に理解・納得してもらうことを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、投函はなされていない。面会時に利用者の状態・状況をお知らせするとともに意見・要望等もお聴きして今後の運営に反映できるように努めている。	毎週来る人、月に数回来る人等それぞれであるが、来訪の都度職員とよく話し合っている。意見、要望はあまり出ない。日用品の購入は事業所が立替え、領収書で精算している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に改善提案書の提出の機会をもたせ、意見を聞くようにしている。介護者意見交換ノートを書くことにより、職場での意思統一を図っている。毎月末職員会議を開催して、介護現場からの意見を聞く機会を持っている。	月1回の職員会議で、意見交換している。職員は業務担当と部屋担当を決めている。時々物品購入の要望が出ており、事情に応じて購入している。なお、代表も勤務ローテーションに入っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を聞く機会を持ち、身体的・精神的に無理の無い勤務で向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外に研修の機会を持ち、研修内容について職員一同で学ぶ機会を持ち、意見交換をしてより良いケアの実践ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加して、交流の機会を持ち、ネットワーク作り・意見交換・情報交換をしている、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように、本人との面談を十分にして、本人の困っていることや不安や要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとした上で本人との信頼関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように、本人・家族との面談を十分にして家族等の困っていることや不安や要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとした上で家族との信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要とする支援を見極め、介護に対する意向を把握して、総合的援助が出来る様に対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、当施設の介護理念を守り、利用者と共にできることに喜びを感じながら、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族等の面会時には、身体・精神的な日常の様子や状況説明をして、本人とのより良い時間の共有が出来る様に援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は、本人との会話の時間を持つように心がけ、歌と一緒に歌う、昔を回想する等心地よい時間の共有を大切にしている。	いろいろな家庭環境や家族の事情があり、事業所として元の地域や家に行くことはしていない。親戚や知人が来る場合はある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課を組んで生活し、一緒に支え合いながら、暮らしを共にしていける様に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設の利用が困難になった場合、必要に応じて情報提供・相談には対応している。信頼関係は、継続出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と会話をする機会をもち、思いや意向を聞きながら、把握していき利用者主体となるようにしている。	人間らしく、普通の生活を、モットーにして、このホームで安心して暮らせるように援助している。利用者の話はよく聞いて、それを報告し合って職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の上、課題分析(アセスメント)概要を作成して、共通理解の下支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当施設の介護理念に基づき利用者を支援、健康観察をして、身体的・精神的な充足感が得ることが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のケアの課題点・ケアの方法を協議の上設定、目標に向かって支援している。サービス担当者会議を開催して、新たな課題について検討している。	職員会議で深く話し合い、文書化してモニタリングとしている。その結果から、状況や変化に応じケアプランは適宜見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア目標(課題点・ケアの方法)を立て、その視点・観点で日々の個別ケア日誌を記録。問題点は、ミーティング・職員会議・担当者会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望や思いをできるだけ尊重し、外出行事・誕生会・季節行事・お楽しみ昼食を行っている医療機関の受診支援もしている。ボランティアの方々との楽しい時間の共有も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	閑静な住宅地で環境も良く、天気の良い日は、散歩に出かけたり、戸外でレク・歌・おやつ・お茶の時間をもち、外の空気を満喫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援をしている。受診の際にかかりつけ医に身体状況を報告している。緊急時には、かかりつけ医に連絡し、相談・指示を仰ぎ、往診支援もしてもらっている。	市医療センターと協力医療機関の契約をしている。近くの医院が利用者全員のかかりつけ医として通院、往診の協力をしてくれる。他に整形外科や心身クリニックに通院する人もあり、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックをして健康観察をしている。利用者の体調変化時には、かかりつけ医に連絡し、相談・指示の下、適切な受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、見舞いや電話で経過報告を聞き、退院に向けてのアドバイスもしてもらう等情報交換や相談をしている。ケースワーカーとの情報交換もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との協働の下、事業所としてできる限りの事をするという説明をして家族の理解が得ることができた折、受け入れ可能である。	家族の希望があって、これまで2件のターミナルケアをした。一人は本年1月に亡くなったが間際まで割と元気だったので、主として代表と管理者の二人で対応できた。家族は延命に否定的で、その考えに沿って対応したが、覚え書等は交わしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の疾病・治療経過・薬剤等の情報については、共通理解を図っている。利用者の体調変化時には、かかりつけ医に連絡し、相談・指示の下、適切な受診をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者とともに火災・防災の避難訓練を実施している。実施する際には、地域の方々にお知らせ協力してもらっている。	3月、9月に避難訓練をし、消防署は来っていないが、消火器訓練、担架運搬訓練も実施した。また、夜間想定訓練は別に実施しており、スプリンクラーも昨年設置している。地域の自主防災組織はできたばかりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が出来る様に、言葉かけや会話にも注意を払い対応している。	一人一人の話をよく聞き、その意思確認ができるまで返事を待つようにしている。もの盗られ妄想の人がいるので、トラブルにならないよう職員が注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、主体的に自己決定が出来る様、職員は和やかな雰囲気と笑顔の対応で傾聴・受容し尊敬の念を持って関わり、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を聞いて、本人の主体性を重んじ日々の安らぎを感じることが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・外出時・入浴更衣時等個人の主体性を重んじ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食の副食は老人宅配サービスを利用している。1ヶ月に1、2回お楽しみ昼食(お誕生日会にも)を利用者の好み等を聞き、職員が手作りで提供している。行事も利用者主体で行っている。	食費の月額を低額にしているのでやりくりは大変である。経費を考え、昼と夕は宅配サービスを利用している。職員は利用者の食事を見守りする関係上、別に食べている。	普通の暮らしをモットーに取り組んでいるのであれば、食事時間や職員の見守り等について、今後、検討・工夫をされるよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、充分に取れるように配慮して、いつでも提供できるようにしている。食事形態も個々に応じて工夫している。嚥下体操を重視している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・うがい等の励行をしている。義歯の方も同様になっている。夕食後は、義歯を預かり、洗浄し保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、利用者個々の排泄リズム、パターンを把握した上で排泄の声かけをして、トイレに自主的に行くように誘導して、トイレでの介助をしている。	日中は全員トイレで排泄をしている。夜だけリハパンや紙おむつの人、夜に頻尿の人もある。3分の1はトイレ誘導が必要である。また、便秘が多いので、排便チェックはしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるかぎり、薬を主体としない自然排便を心がけ、水分摂取量・食事・運動等への気配りを行っている。利用者個々の排便のチェックを徹底し、便秘薬の提供支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、週2回であるが、一人一人の希望に応じることは可能である。足腰・歩行不安定な利用者は、リフトを利用し、浴槽に入りゆっくり入浴してもらっています。	入浴は火曜、土曜の午後1時からにしており、男女入れ替えで順番を決めている。週2回であるが、臨機応変の入浴もされている。2～3人は自力入浴できるが、2人はリフト浴である。	入浴回数は一応、基準を満たしているが、より多く入浴できるよう工夫されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休息支援をしています。昼食後には、個々に応じて休息タイムを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・薬剤情報は、責任者が個別管理・保管している。受診情報も個別に記載し保管している。しっかりと確認のうえ、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前にはリハビリ体操・お茶タイム。午後に体操・レクリエーション・おやつ・お茶タイム等の支援をしている。ボランティアの方々との交流も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・近隣のコンビニへの買い物付き添い支援・病院受診・定期受診・ドライブ・外食等の外出支援を行っています。	駐車場で日向ぼっこしたり、暖くなれば散歩に出たり、時には趣味や嗜好品の買い物に出たりしている。昨年3月には家族同伴の日帰り旅行もした。夏には庭にゴーヤを作って楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人が、小銭を所持しているが、用途はされていない。本人の意志で買い物希望の時は、付き添い支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援体制はあるのだが、実際には利用者が希望していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物をリフォームしたもので共用空間の広さにやや問題があるが、足腰の弱い方が自立して伝い歩きを行うには問題はない。利用者の作品を掲示したり、共同作品の作成・掲示で温かみのある空間ができている。	昼間は全員、食堂兼ホールに集まり、歌ったり、絵を書いたり、パズル等をしている。階段の昇降がリハビリにもなっている人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いている空間は、広くはないが、利用者同士雑談もでき、ゆっくりと過ごせるように工夫し、大いに活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・クローゼット・エアコンの設備があり、本人のプライバシーも重視した、心地よい居室空間となるようにしている。	夕食後は各自、自室に戻り、好きなようにしている。入居期間が短いためか、部屋の中は小ざっぱりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように、生活に迷いや不安がないように、職員の顔がいつも見えるように心がけて、見守り強化して、時間・場所の表示等の工夫をしている。		